

大腿骨近位部骨切り術を受けられる患者さんへ(1日前入院)

患者ID 氏名	担当医 担当看護師 配布日									
	入院:1病日 手術1日前	2病日 手術当日(手術前)	3病日 手術当日(手術後)	4病日 手術後1日目	5病日 手術後2日目	6~9病日 手術後4~7日目	10病日 手術後8日目	11~14病日 手術後9~12日目	15~17病日:退院 手術後13~15日目	
達成目標	・手術後の経過について理解できる ・痛みによる苦痛がない		・循環動態が安定している ・脱臼症状がない(随意運動ができる、関節の変形がない) ・深部静脈血栓症症状(下肢の腫脹、しびれ、熱感、発赤、チアノーゼ、変色)がない ・腓骨神経麻痺症状(背屈ができない、下垂足、知覚障害)がない ・禁忌肢が守られている	・離床ができる ・38.0°C以上の発熱がない ・創部の浸出液、発赤がない					・退院指導の内容を理解できる	
内服	・薬剤師が、持参薬および服薬状況について確認します			・痛み止めを1日3回、毎食後に内服します(7日間)						
手術・輸血		手術		・貯血をした場合は、自己血を輸血します						
注射		・点滴をします			・点滴を抜きます					
検査	・採血 ・レントゲン ・身長・体重測定			・採血		・採血		・採血(手術後4日目) ・採血/レントゲン (手術後7日目)	・採血/レントゲン (手術後14日目) ・体重測定(退院日)	
処置		・弾性ストッキングを着用します		・フットポンプをつけます				・医師の指示後、フットポンプを外し、弾性ストッキングを脱ぎます		
				・手術室で尿の管を入れます	・尿の管を抜きます					
				・手術室で創部に管(ドレーン)を入れます	・創部のドレーンを抜きます					
				・ブレパンツを着用します	・ドレーン抜去の翌日に、ブレパンツを脱ぎます					
				・心電図、酸素飽和度モニターをつけてます	・心電図、酸素飽和度モニターを外します					
食事	・夕食後は、指示された時間から、飲食はできません			・医師の指示後、飲水できます	・朝食(常食)から開始となります					
活動・安静	・制限はありません			・ベッド上安静ですが、看護師の介助で頭元を上げる	・ドレーン抜去後、医師と共に車椅子に移乘します					
				ことはできます	・その後は、看護師付き添いで、完全免荷で車椅子に移乗できます					
				・排泄はベッド上で行いますので、ナースコールでお知らせください	・トイレを使用できます					
清潔	・シャワー浴をしてください		・洗面、歯磨きを済ませてください	・洗面、歯磨きを介助します	・身体を拭きます	・計画的に洗髪をします	・シャワー浴ができます			
リハビリ				・リハビリテーションが始まります						
説明	・入院オリエンテーションを行います ・医師が手術の説明をします ・手術室の看護師が、手術に伴う確認や諸説明をします ・本用紙を用いて、治療スケジュールについて説明します ・転倒転落予防について説明します ・深部静脈血栓症予防について説明します ・術前オリエンテーションをします								・「股関節の手術を受けられた患者さんへ」のパンフレットを用いて、退院後の生活について説明します	
その他	・同意書は職員にお渡しください ・手足の爪を切り、マニキュアは落としてください ・化粧は落としてください ・深呼吸、床上運動、床上排泄などの術前訓練をします 【必要物品】 ・T字帯2枚・平オムツ1枚 ・曲がるストローまたは樂のみ ・スプーンやフォーク(必要時) ・柄付きブラシ ・リハビリテーションで着用するズボンや靴		・手術衣に着替えます ・義歎、コンタクトレンズ、時計、アクセサリー等は外し、各自保管してください。メガネと補聴器は必要時、手術室までつけていただけます ・貴重品は、ご自身又はご家族で管理してください ・ご家族は2階デイルーム・面談室で待機してください。場所を移動される時は必ず職員へお声掛けください	・痛みがあれば鎮痛剤を使用しますので、我慢せずにお知らせください ・深部静脈血栓症予防のため、足首の反り返しや膝の曲げ伸ばしを行ってください	 					

診療計画、入院期間は現時点での予定です。今後、状態の変化によって変更されることがあります。不明な点がありましたらいつでもお尋ねください。